

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

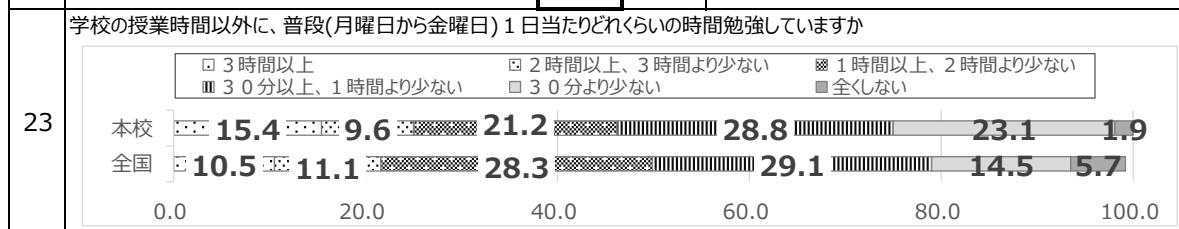
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	67.4	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	71.2	85.7
46	授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にし、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	90.4	91.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	82.7	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	73.1	78.4



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎ 学び方を自分で考え、工夫しながら学習に取り組もうとする姿が見られます。

◎ 友達や周りの人の考えを大切にして、協力しながら課題の解決に取り組もうとする意識も高い傾向が見られます。

● 課題の解決に向けて、自ら考え、取り組む力を高める必要があります。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	73.1	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	86.6	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	76.9	85.7
21	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	86.5	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 将来の夢や目標を持ち、前向きに生活している様子がうかがえます。

◎ 人の役に立つ人間になりたいと考える心が育ってきています。

● 児童自らが主体的に地域に関わろうという意識を高めていくことが求められます。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.2	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	67.3	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

○ 自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のためにタブレットの使用など自分に合う学び方を選択できるように取り組みます。

○ 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話を通して、互いを知り、認め合う力を育むため、児童の挑戦を支えています。

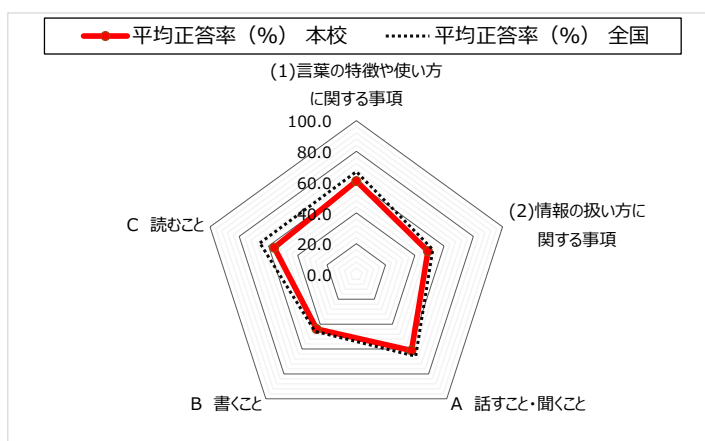
【ご家庭では】

○ 生活の中のお子さんの疑問を大切に、課題解決に自ら挑戦する姿の応援をお願いします。

○ 学習時間の目安を参考に、自分で決めて家庭学習ができるように励ましていただくと助かります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	60.7	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	49.0	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	61.2	65.8
	B 書くこと	43.9	45.7
	C 読むこと	56.1	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	56.5	61.9
短答式	54.1	62.6
記述式	54.1	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 自分の考えや根拠を文章で表現する力については、全国平均に近い結果であり、一定の成果が見られます。
- ◎ 文章や資料に含まれる情報の内容や特徴を捉える力については、全国平均に近い結果となっています。
- 「読むこと」の領域に課題が見られるため、複数の情報を関連付けて読み取り、根拠を明確にして表現する学習の充実が必要です。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 二 (1)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	65.3	60.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三 (1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	26.5	45.2
3 三 (1)	目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる	36.7	55.5

調査結果を受けて

【学校では】

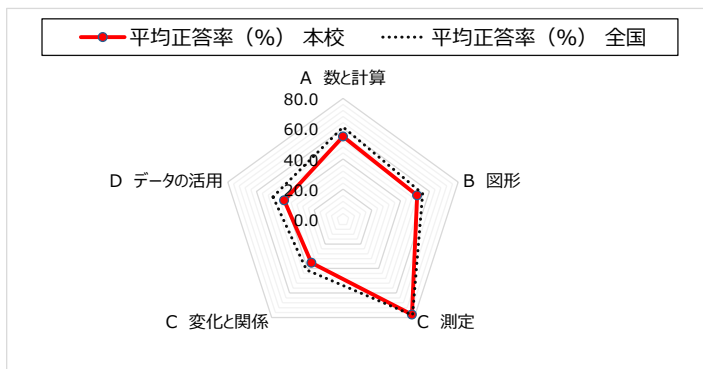
- 日々の日記や作文指導、他教科において既習漢字を積極的に使用する課題を設定し、繰り返し書く機会を確保して定着を促進します。
- 話し合いや読解を通して、情報を関連付けて関連付けて考える力を育てます。

【ご家庭では】

- 読書や生活の中で見つけた漢字について、「これは何と読むのかな」「どう書くのかな」と親子で話題にしてください。
- 会話の中で理由を尋ね、自分の考えを伝える機会を増やせるよう意識してもらえると助かります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	54.8	61.1
B 図形	51.5	55.3
C 測定	77.6	78.1
C 変化と関係	35.4	41.1
D データの活用	40.8	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	51.0	56.0
短答式	58.2	59.7
記述式	34.7	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎たずねられたことに対して、短時的確に答えを求めることはできています。

●与えられた条件の中で、「なぜ」、「どのように」求められるかを説明する力を高める必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1(1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	83.7	72.7
3(1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	98.0	94.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2(4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	20.4	34.2
4(3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	16.3	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 問題場面を図に表す活動を取り入れていきます。数多く、いろいろな問題に取り組ませられるよう授業時間の構成の工夫を取り入れます。理解が難しそうな場面など、タブレットの有効活用についてさらなる取り組みを深めます。
- 表やグラフを使った学習では、「この数字は何を表しているか」など言葉で説明する場面を多く設定したり、実際に日常生活から表やグラフを作る活動を取り入れたりして実生活と算数を結び付ける手立てを取り入れます。

【ご家庭では】

- 生活の中で算数を使える場面は多くあります。メディアで目にしたグラフについて情報を読み取りながら家族で対話をするなど、お子さんの興味に応じて意識した声掛けをしてもらえると効果的だと思います。